

社説

日本と南シナ海

南シナ海をめぐる中国や米国、周辺諸国などが激しい駆け引きを展開している。アジア太平洋経済協力会議（APEC）出席に続き、東南アジアを訪問中の安倍晋三首相も、オバマ米大統領など各国首脳との会談で「深刻な懸念」を表明した。

南シナ海は多くの国の船舶が行き交う海上交通路であり、国際的な「公共財」と言える。中国はその海域の大半の管轄権を一方的に主張して岩礁の埋め立てを強行している。

中国の振る舞いへの批判は高まっており、自制と国際法に基づいた対応を促すのは当然だ。日本はベトナム、フィリピンなど周辺国との連携を強める必要がある。

しかし、海外への関与にはおのずと限界がある。世界中に軍を展開する米国と同じような行動はできない。「平和国家」として外交による解決に力を尽くすが役割だ。

首相はオバマ大統領との会談で、南シナ海での自衛隊活動を「検討する」と述べた。日本の安全保障への影響を踏まえ総合的に判断するところが、緊張を高めるような関わり方は絶対に避けねばならない。

前のめりの姿勢は危うい

中国は、岩礁を造成した人工島の周辺12海里を「領海」と主張する。米国は「航行の自由」を阻害すると認めず、イージス艦に12海里を航行させた。

日本はフィリピンなどとともに米国を支持している。沖縄県・尖閣諸島でも中国艦船が領海侵入を繰り返しており、「平和な海」を守る姿勢を明確に示すことは重要だ。

ただ、安倍政権は南シナ海への自衛隊派遣などにたびたび言及してきた。「具体的な計画はない」とするが、今回の首相発言は、検討していると国際社会に受け止められる。

今年春の日米防衛協力指針（ガイドライン）の改定と安保関連法の成立で、自衛隊と米軍の連携の範囲が拡大された。場所も日本周辺に限定せず、平時からの米軍の後方支援や米艦船防護などに道を開いた。

米国は中国を刺激しないよう、当面は日本に艦船派遣などを求めない方針とされる。だが今後、米軍の肩代わりを迫られる可能性はある。

その場合、自衛隊の海外派遣にどう歯止めをかけるのか。安保政策の転換につながる問題であり、事前に国会で徹底的に審議すべきだ。米軍との協力的に前のめりと映る政府の姿勢は、いかにも危うい。

2015.11.22

日曜小論

論説委員室 桜間 裕章



よみがえる兵庫運河

兵庫運河（神戸市兵庫区）がきれいになってきたとは聞いていたが、改善は予想以上に進んでいるようだ。

透明度が増し、入り込んだイワシの群れをスズキなどが追いかける。大きなアサリやイワガキなども増えた。

周辺企業でつくる「兵庫運河を美しくする会」や兵庫漁業協同組合、NPOが今夏に初めて発行した図鑑「兵庫運河の生きものたち」には30種近い貝が掲載された。絶滅の恐れがあるとされていた種も見つかったという。汚れた川のイメージは一変した。

明治32（1899）年に完成した兵庫運河は、水面積約34秒と日本最大級を誇る。当初は船の避難場所として計画され、貯木場や物資運搬の水路となった。周辺には工場などが立ち並び、企業活動の場として利用されてきた。

しかし、高度経済成長期には水質悪化が目立ち、「運河を埋めろ」の意見さえあった。汚染がピークを迎えていた1971年、地元企業が美しくする会を結成し、運河再生の機運が高まった。

当時の本紙記事には、現状を嘆き、全盛期の大正時代を懐かしむ木材業者の声を紹介されている。「運河の水で米をとくと塩味がきいてうまかった。岸からイナやエビが見えた。夜になるとカキ船が行き交い、ちようちんの明かりを水面が映し出していた」

40年余りたち、そんな光景も夢ではなくなってきた。地域での清掃や真珠貝を育てるプロジェクトなど地道な活動が実を結びつつある。

美しくする会の山下邦人会長は「自然の浄化作用に驚く。この10年ほどで目に見えてきれいになり、生き物の宝庫になりつつある」と話す。

神戸市も散策路などを整備しているほか、周辺を都市景観形成地域に指定し、魅力アップに取り組む。

悪臭を放っていた運河は地域の財産としてよみがえってきた。回遊性向上など課題はまだ多いが、貴重な歴史遺産として生かしていきたい。

My Opinion

「私たちは、人類の一員として、人類に向かって訴える。あなたがたの人間性

時々忠論

引川市



ヤラリーの「参加」を促す。ガイドから「質問して」と言